

まちづくり新聞

心やさしく安全に暮らせる神納東 ～笑顔があふれる集落・地域を目指して～

住民アンケート調査の集計結果と分析がまとまりました

▶ 報告会での意見交換の様子



平成29年7月から8月にかけて実施した住民アンケート調査の集計結果と分析がまとまり、平成29年11月28日（火）、七湊集落センターで報告会を開催しました。

報告会では、まちづくり協議会の代議員や運営委員を対象に、都岐沙羅・パートナーズセンター理事の斎藤主税さんからアンケートの分析結果を報告いただいたのち、出席者同士で意見交換を行いました。

アンケート結果の概要とポイントは下記のとおりです。

アンケート結果から見えるポイント

アンケート結果	ポイント
アンケートの実施と回収率 中学生以上の全住民を対象にアンケートを実施。 回収率は80.0%！（配布1,246、回収997）	かなりの高回収率！住民の意向がしっかりと反映されているデータといえる。
回答者属性 回答者の半数近くは60代以上。 農業従事者の82.1%が60代以上。	世代別に意見をまとめないと若い世代の声が埋没する。 将来的に農地の維持管理が心配される。
日常的な交通手段  80代になると車を運転する人の割合が減少する。 （70代→80代：男性18.0%↓、女性50.7%↓）	日常生活での移動が困難になる人が確実に増加する！ 移動支援を今から考えていく必要があるのでは？
インターネットの利用割合 全体の半数以上（58.1%）がインターネットを利用。 （40代以下は約9割、50代でも約8割） （大半がスマートフォン、携帯電話で利用） 	50代以下はインターネット経由での情報伝達が効果的?! （閲覧板は若い世代の人が見ないうちに回ってしまっていることがある？）
地域活動[※]への関心	※地域活動：地域や集落の活動や共同作業、まちづくり協議会等の活動、地域の祭り・行事・イベントなど
全体では「関心はあるが参加していない」の回答がトップ。（26.7%）その理由の大半は、「余裕がない」。（50代以下の9割以上がこの理由）	必ずしも「地域活動に参加していない＝関心がない」というわけではない。多様な関わり方を検討したり、直接対話したりすることが必要。
「関心はないが、付き合いで参加」の理由は、「頼まれた」が第2位。（23.6%）	一人ひとりをお願いすることで参加につながる可能性がある!?
10～20代は、「関心はなく、参加したいとも思わない」の回答割合が多世代に比べて極端に高い！	現状は40～70代の方々の頑張りでも地域活動が回っている。将来に向け、次の世代の人たちの声に真摯に耳を傾ける必要があるのでは？

人口流出を食い止めるカギは「地域への愛着」にあり！

アンケート結果	ポイント
---------	------

女性・若者の声を反映する必要性

地域全体では半数以上が「必要」と考えている。60代男性（役員世代）は約6割超、30代以上は半数以上が「必要」と回答。

お互いにその気はある！声を反映させる場や機会、仕組みについて充足させる必要がある。



移住・定住者の受け入れや他地域との交流の必要性

中堅世代で「必要」と考えているが、「わからない」もほぼ同数。

必要性は薄々感じているが、まだ今ひとつ実感がない。今後を考えて話し合いを徐々に進める段階。

この地域に住み続けたいと思うか？

全体では約3分の2の方が「住み続けたい」と思っている。（かなり高水準！）ただし、10代、20代は地域平均より低い。

若い世代は「わからない」と回答した割合が多い。幼少の頃から愛郷の心を育む取り組みを！地域への愛着→将来的な定住へ。

自分の子どもにも住み続けてほしいと思うか？

地域全体では「住み続けてほしい」が約半数。子育て中の親世代（特に30代）の「住み続けてほしい」の割合が地域平均より低い。（約3割）

親世代の考えが、子に影響する可能性があるので注意が必要！（将来的な人口流出の引き金になるかもしれない…）

地域への愛着

「愛着がある」と答えた人は62.8%で、決して低い数値ではない！世代間の差もあまり小さくなく、どの世代もこの地域に愛着があることがうかがえる。

世代間のギャップが少ないのはいい兆候で、今後も地域全体で郷土愛を育てていくことが大切。



誇りに思う地域資源は？（複数回答）

全体でのトップ5は	
① 景観・自然環境	40.2%
② 暮らす人々	30.7%
③ 諸行事（祭り、イベント等）	23.7%
④ 助け合いなどの社会関係	22.5%
⑤ 特産物（農産物、林産物、加工品等）	15.6%

これまで地域で大切にされてきた自然環境や人と人との関係、伝統行事をはじめとした地域・集落の諸行事が、誇りや愛着につながっていると言える。一方で若い世代では「無い」と答える割合も高く、世代間の意識の違いにも目を向ける必要があるのでは？

近所づきあいでの悩みは？（複数回答）

全体の約6割が「悩みなし」と回答しているが、年代別に見ると30～60代では「忙しすぎる」、80代では「仲間がほしい」という悩みが全体平均より高い。

人は減っているが、役割・仕事量が変わらなければ負担感が増す。今後想定される人口減少に備え、地域・集落の運営の方法や組織の体制について検討を始める必要がある。

※アンケート結果の詳細は、神納東地域まちづくり協議会のホームページでご覧いただくことができます。

<http://www.city.murakami.lg.jp/site/kannouhigashi/>



社会情勢の変化、現状の理解 → 住民自治の進化が必要！

アンケート結果	ポイント
---------	------

暮らしの中での困りごと(複数回答)

全体でのトップ5は		
① 健康面への不安がある	18.7%	70、80代でトップ。(60代は第2位) 自らの健康について不安視している人が多い。
② 玄関先の雪のけなどの冬季の除雪	17.2%	30代以上で上位に入っている。 40代は除雪の担い手という立場で、70、80代は自身の困りごととしてあげられている？
③ 災害への備えや避難	15.4%	ほとんどの世代に上位にランクインし、地域共通の困りごと(心配ごと)と言える。地域全体で防災意識・防災力の向上が求められる。
④ 農地や山林の維持管理	15.0%	50代以降で上位にランクイン。(60代は第1位) 40代以前はまだ関心が薄い？
⑤ 仕事・雇用に関すること	14.7%	働く世代で上位にランクイン。 (20、40、50代で第1位。30代で第2位)

【まとめ、注意点など】

- ・世代別の困りごととも分析して丁寧に着目することが重要。(少数派である若い人の意見が埋もれやすいので注意！)
- ・「医療体制に不便を感じる(全体6位)」は、30～60代で上位。子育て、親の介護という面で困りごとになっている!?
- ・「仲間と気軽に集まる場所がない(全体8位)」は、10～20代で上位にランクイン。(10代では第2位)
- ・「結婚に関すること(全体13位)」は、20代のみ上位にランクイン。(20代の第2位)
- ・「買い物・通院などの移動手段(全体15位)」は、80代のみ上位にランクイン。(80代の第4位)

取り組みの満足度と重要度の評価

アンケート結果から見える これから重点的に取り組むべきテーマのトップ5は		
① 見回りなど、防犯・交通安全活動		30～60代は圧倒的にこれが大切だという評価。 周辺道路の整備や商業施設の進出が要因?
② 状況把握・持ち主との交渉など、空き家の管理活動		50代以上はこの必要性を強く感じている。 人口減少・流出の影響か?!
③ 避難訓練・連絡体制など、防災活動		30代以上はこの必要性を感じている。防災体制の強化が急がれる。
④ 登下校の見守りなど、子どもの安全を支える活動		30～60代はこの必要性を強く感じている。地域で子どもを育てる・見守るという意識の現れか。
⑤ 買い物・通院など、移動支援活動		30～60代はこの必要性を強く感じている。自分の親や祖父母世代への移動支援を求めている。

【年代別集計による特記事項(その世代で重要だと思っているもの)】

- (30～60代) ☆見守り・配食サービスなど、生活支援活動
- (50代以上) ☆農地・山林などの維持管理 ☆婚活イベント・紹介など結婚対策
- (10～60代) ☆子育てなどの相談ができる人や場など ☆日常的な不安や悩みが相談できる場や人

全体まとめ

- 将来に向けた対策を講じる前に、まずは冷静に地域の現状を理解することが重要。
(思い込みだけでいろいろな取り組みを進めると、現状とのズレから空振りに終わる可能性があるので注意！)
- 少子高齢化や人口減少など大きな社会情勢の変化の中で、これからの地域づくりは、今までの延長ではなく時代に即した進化が必要！
- 若者・中堅世代(これからの地域の担い手)は少数派。丁寧に意見を聴かないと(分析しないと)、多数派(中高齢者層)に埋没してしまう。

自由記入のご意見・ご提案など(抜粋)

- ・今後高齢化が進んでいく中で、地域の人々が気軽に参加できる福祉サービスなどをもっと整えていく必要があると思います。
- ・まちづくり協議会は、他の団体とも連携して成果をあげてもらいたいです。
- ・地域住民のつながりの大切さは非常に大切だと思います。集落や小中学校校区で様々な取組がなされていますが、仕事や家庭と多忙でなかなか参加できません。日時、全体の時間等も含めて柔軟に計画していただけたらと思います。
- ・神林地区は穏やかな時が流れる安心・安全な土地だと思います。子どもたちも素直で優しいです。これからも子どもたちの笑顔を守っていきたいです。
- ・すべてに協力できるわけではないですが、地域活動に積極的に参加し、携わっていきたくと思っています。地域づくりの運営に女性が関わると、女性目線での企画もできると思います。
- ・引っ越してきたのでまだ知り合いも少ないですが、夫が集落の缶拾いや掃除に行ったとき、集落の皆さんが気軽に話しかけてくれると言っていました。まだ子どもが小さいので、これから行事など家族で出席できればと思います。
- ・高齢化が進んでいる中で、冬場の除雪はとても大変です。日々の生活のサポートを地域全体で行っていただけると大変ありがたいです。
- ・地域の人たちは積極的に行事等に参加していて、とてもいいと思います。行事に参加することで地域の人たちがより交流できると思います。
- ・この地域は、あいさつがとてもいいと思います。「おはようございます」「こんにちは」「こんばんは」など、いつもするあいさつだけでなく、「お世話になりました」「先日はありがとうございました」などいろいろなあいさつをこれからも続けていってほしいです。

アンケート報告会での意見(抜粋)

アンケート報告を聞いてのご意見、ご感想	今後地域でどのような取り組みが必要？
<ul style="list-style-type: none">・地域の行事等に関心のある人が思っていたよりも多く、今後工夫することで多くの人に参加してもらうことが大切だと感じた。・世代別に困っていることや地域活動への関心が見られたのはよかった。・20年後どうなっているか心配になった。	<ul style="list-style-type: none">・世代を超えた集会を定期的に関くなど、意見交換を行う機会を作る。・高齢者の見守りや支援について検討しなければならない。・一人ひとりが取り組んで進んでいくしかないが、同じ人の負担が大きくなりそう。

ご意見をお寄せください

協議会では、来年度から始まる第3期地域まちづくり計画を策定中です。今回のアンケート結果などをふまえ、地域内での話し合いを進め、これからの地域づくりにつなげていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

ご意見・ご感想・お問い合わせ

- 村上市神林支所
地域振興課自治振興室(担当:佐藤)
- 電話・告知端末
0254-66-6122
- 自治振興室メール
k.shinko-chiiki@city.murakami.lg.jp

市民協働のまちづくり ホームページを開設しています

村上市 市民協働のまちづくり

検索

村上市公式ホームページの右上バナーからもアクセスできます。

市内 17 地域まちづくり協議会の活動状況や協働のまちづくりに関する情報が閲覧できます。フェイスブックページもあわせてご覧ください。

村上市公式ホームページURL <http://www.city.murakami.lg.jp/>

協議会フェイスブックページ <http://www.facebook.com/kannouhigashi/>

